

福岡大学病院

FUKUOKA UNIVERSITY HOSPITAL

あたたかい医療



福岡大学病院の基本理念

あたたかい医療

社会のニーズに応える患者中心の医療の提供

高度先進医療の指導的病院

地域に開かれた中核的医療センター

社会に必要とされる優れた医療人の育成

健康のための情報発信基地

福岡大学病院綱領

1. 患者の権利と尊厳を尊重し、高い倫理観、使命感を備え、優しい心を持った医療人による誠実で責任ある医療を提供します。
2. 高度先進医療を提供する大学病院として最新の医療技術を導入し、個々の患者に応じた最善の医療を提供します。
3. 全人的医療を目指して全職種が協働し、患者を中心とした満足度の高い診療に取り組みます。
4. 地域住民との絆、地域医療機関との連携を大切にし、医療・健康に関する情報の発信を通して医療水準の向上に努めます。
5. 臨床研究・高度技術の開発など、大学病院として先端的研究に取り組み、世界の医療や医学の発展に貢献する人材の育成を図ります。

病院長あいさつ

福岡大学 総病院長 / 福岡大学病院 病院長

岩崎 昭憲



初めに

福岡大学病院長に就任し新型コロナウイルス感染症とともに3年が経過しました。この間、社会は大混乱と停滞を余儀なくされましたが、ようやく出口が示され日常に近い生活が戻ってくることが期待されています。しかしながら感染リスクに対する備えと医療負担は完全にはありません。どのような状況でも私たちは、常に安全で高度な医療の提供と医療人育成に積極的に取り組む必要があります。引き続き、大学病院としての機能を最大限発揮できるように私の責務を果たしたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

さて福岡大学病院は、昭和48年8月4日に開院し50周年の節目を迎えます。また地下鉄七隈線も3月末には博多駅まで延伸直結します。加えて病院新本館もいよいよ12月には竣工します。このように取り巻く環境も一新されますので、これを好機に一層の躍進を致したいと考えています。以下に当院の状況とこれからの展望を述べたいと思います。

診療と新本館建設について

長引く新型コロナウイルス感染症は、ようやく5月から現実路線の「社会生活重視」にシフトが進むことが決まっています。しかしながら5類のインフルエンザと同じ位置づけとなりますが、必ずしも同じ医療体制で取り扱えるわけではないと思われます。しばらくは、より慎重な対応が求められることでしょう。

2021年10月より新本館建設に着工し本年12月の竣工へ向けて順調な工期で進んでいます。モデルルームも展示し室内仕様にも患者さん視点で多くの意見を取り入れました。装備する大型医療機器の選定は終了し、竣工後に順次搬入作業が行われる予定です。2024年1月からの第V期統合医療情報システム稼働に向けて、準備には1年を要するので運用準備委員会を始動しています。AIが組み込まれた医療画像管理システム(PACS)は昨年11月より稼働しています。このように建物や機器などハード面の刷新が進んでいます。実際に運用する人材が重要になります。これをきっかけに効率的な稼働、運用手順、患者サービス向上など更に精度を上げてまいります。

DX(デジタルトランスフォーメーション)は医療分野でも、その活用が広がっています。例えばオンライン診療や電子処方箋、医師資格証カードなど医療環境改善に貢献しています。

【患者さんへの思い】病院本館の玄関入り口に「ヒポクラテスの誓」(写真1)が掲げてあります。ご存知の方も多いとは思いますが、このギリシア時代の医師が紀元前に述べた言葉は、現在にも通じるもの(医療人の姿勢)として福岡大学病院で大切にされています。当院へお越しの折は、是非御一覧ください。この石版は、福岡大学の当時の瓦林潔理事長が寄進された重要な碑として新本館に移設をいたします。

前述しましたように、今年はようやく新型コロナウイルス感染症への様々な制限が緩和していくことでしょう。3年以上続いた感染禍でも当院の質の高い医療提供体制は評価されました。今後も、地域中核医療施設として皆様にさらなる貢献ができるように、安心・安全の医療実現に務め、当病院の使命(あたたかい医療)を果たします。また本院は、他の福岡大学筑紫病院、福岡大学西新病院と連携を一層強固にして、これらをけん引していきます。



写真1

【最近の取り組み】これから心不全患者の爆発的増加が予測され、心不全パンデミックとも例えられています。これらに対する最新治療の一環として補助循環用ポンプカテーテル(IMPELLA)での重症心疾患の治療を開始しました。各診療科でのロボット支援下手術の需要の高まりにより一時期、土曜日の手術運用も行いました。さらなる需要に応えるため、da Vinci機器の2台目購入を行っています。移植医療はコロナ禍でも、腎臓や肺移植も年間最多数を実施し積極的に取り組み、治療を待ち望んでおられる患者さんの期待に応えています。医師の過重労働対策である「働き方改革」は2024年4月にスタートしますが、それに向けた多職種とのタスクシフト・シェアの推進を進めていかねばなりません。

私たちは、選ばれる病院として4つの「しんか」を目標に掲げています。それは、患者との信頼関係をさらに深める深化、成長領域をさらにのびす伸化、新たな分野への挑戦である新化、結果として福大病院の価値や能力を生み出す真価です。

これらを実現するため、今後も努めてまいります。ご支援を宜しくお願い申し上げます。

外来



患者さんひとりひとりを大切に
「あたたかい医療」を提供してまいります。

診療受付時間

平日

| | |
|----|--------------|
| 初診 | 8時30分～12時00分 |
| 再診 | 8時30分～15時00分 |

休診日：土曜日・日曜日・祝日・振替休日
8月15日・12月29日～1月3日

PICKUP

案内・受診相談

新館1階初再診受付横に、案内・受診相談窓口を設けています。

「診察を受けたいけど、何科にかかったらいいかわからない」という時、看護師を中心に受診科の相談に応じています。また、院内の施設や場所の説明など何でもお気軽にご相談ください。

専門的知識・技術を有する看護師が、患者さん、ご家族へケアや相談などに対する看護師主体の相談窓口を開設しています。(物忘れ相談、こどもとご家族の相談など)



診療科・センター 一覧

- 福岡大学がんセンター(腫瘍・血液・感染症内科)
- 内分泌・糖尿病センター(内分泌・糖尿病内科)
- ハートセンター(循環器内科、心臓血管外科)
- 消化器センター(消化器内科、消化器外科)
- 腎・泌尿器・膠原病センター(腎臓・膠原病内科、腎泌尿器外科)
- 呼吸器センター(呼吸器内科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科)
- 脳神経センター(脳神経内科)
- 精神神経科
- 小児医療センター(小児科、小児外科)
- 運動器・脊椎・脊髄センター(整形外科)
- 皮膚科・形成外科・美容医療センター
(形成外科・美容外科、皮膚科・美容皮膚科)
- 脳卒中・脳脊髄腫瘍センター(脳神経外科)
- 女性診療センター
(産婦人科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科、形成外科)
- アイセンター(眼科)
- もの忘れ外来専門センター(脳神経内科、精神神経科)
- 耳鼻咽喉科
- 放射線科
- 麻酔科
- 歯科口腔外科
- リハビリテーション部
- 総合診療部
- 予防・抗加齢・再生医療センター
- 心臓リハビリテーションセンター(循環器内科、心臓血管外科)
- 摂食嚥下センター(歯科口腔外科、耳鼻咽喉科)
- 最先端ロボット手術センター(呼吸器・乳腺内分泌・小児外科、消化器外科、腎泌尿器外科、産婦人科)
- 炎症性腸疾患先進医療センター(消化器内科)
- 遺伝医療室
- 臓器移植医療センター(呼吸器・乳腺内分泌・小児外科、腎泌尿器外科、腎臓・膠原病内科、眼科)
- 睡眠センター
- 子どものこころ診療センター

病棟



患者さん中心の医療が提供できる
安心・安全な療養環境づくりを目指します。

病室

当院は、救命救急センターを含む20の入院病棟を有しており、病状や治療に合わせ、専門性の高い医療が提供できる療養環境を整えています。患者さんにとっては病棟・病床が生活の場となりますので、早期回復に向け患者さん個々に応じた療養生活を病棟看護職員が支えます。また、特別療養環境室(有料個室)として、病室の広さや備品により、各種病室が選択できますので、医師・看護師にご相談ください。

[一般室]



[個室]



PICKUP

てぶらで入院セット 有料

入院の際、身の回りのものをまとめて提供する「てぶらで入院セット(有料)」をご用意しています。衣類や消耗品の準備、タオルの洗濯等が不要になりますので是非ご利用ください。

- | | |
|---------------|----------|
| ・病衣 | ・ストロー |
| ・バスタオル | ・ストローコップ |
| ・フェイスタオル | ・歯磨きセット |
| ・お食事セット | ・ティッシュ |
| (箸・スプーン・フォーク) | ・イヤホン |
- など

PICKUP

糸島あじわいメニュー

福岡西部に位置し、美しい海と山に囲まれて自然豊かで食材が豊富な糸島。新鮮な野菜や大豆製品、黒毛和牛、玄海ポークなどの糸島産の食材を中心に使用し、有田焼の器に盛り付けた食事を提供しています。クオリティーの高い食材を使った地産地消の病院食です。入院生活を少しでも快適に過ごしていただけたらと思います。

※入院時食事療養費以外に1日880円(税込)の自己負担が必要です。



1 救急医療

24時間365日私たちは、救急患者さんの治療に全力を尽くします。



「一次救急」は
入院する必要のない軽症の急病患者、

「二次救急」は
入院や手術を必要とする患者、

「三次救急」は
生命に危険が及ぶような
緊急性の高い
重症患者に対応するものです。

当院では、
二次救急を救急外来(ER)が、
三次救急を救命救急センターが
担っています。

PICKUP

救急医療 ECMOセンター開設

当院では2020年7月に救命救急センターに併設した“ECMOセンター”を立ち上げました。ECMO治療は新型コロナ肺炎などが重症化し、人工呼吸器だけでは管理できない重篤な呼吸不全に対しておこなう呼吸管理の“最後の砦”です。ECMOセンターのスタッフは海外研修などでこれまでに蓄積してきた知識と経験を活かし、積極的に地域の重症呼吸不全患者を受け入れています。2021年6月には九州初のECMO専用のドクターカー(ECMO Car)を導入し、県内はもとより隣接県の重症患者も当院まで安全に搬送できるようになりました。これからも、より一層重症呼吸不全患者の救命を目指していきます。



2022年2月、コロナ患者に対するECMO治療の功績が認められ、医療・介護・教育研究財団より第15回ふくおか「医療活動功労賞」を授与されました。



PICKUP

救命救急センター

当院の救命救急センターは、人口250万人を抱える福岡都市圏のうち、福岡市南西部と糸島市を中心に、「三次救急」医療を担っています。病床数は34床を有し、年間約1,000名の最重症患者を受け入れており、救急医療の最後の砦として頑張っています。2020年7月には重症呼吸不全患者の治療に特化した「ECMOセンター」を併設しました。1人でも多くの助かる命を助けるため、スタッフ一丸となって最高水準の医療の提供を目指します。

PICKUP

災害医療(DMAT) Disaster Medical Assistance Team

DMATとは大規模震災や多数傷病者が発生した事故などの際に、直ちに現場へ駆けつけ、救急医療を行う『災害派遣医療チーム』です。DMATは災害医療の専門的訓練を受けた医師、看護師、業務調整員で構成された、災害医療のスペシャリストです。当院のDMATは東日本大震災をはじめ、2016年4月の熊本地震、九州北部豪雨(2017年7月)、令和2年7月豪雨(人吉)(2020年7月)に出動し医療活動等を行いました。



PICKUP

救急外来(ER)

救急外来(ER)は、「二次救急」の患者さんを受け入れるため2014年4月に正式に設立されました。現在、総合診療部を中心として、循環器内科、消化器外科など多くの診療科がERを支えています。



PICKUP

ドクターカー (ECMOカーとFMRC)

現在、福岡大学病院はECMOカーとFMRC(Fast Medical Response Car)の2台の異なるタイプのドクターカーを運用しています。

ECMO(エクモ)カー

通常の救急車では対応が困難な人工呼吸器やECMO等を装着している重症患者を搬送する際に使用します。車両内のスペースは広く、集中治療室並みの装備を配置し、『動く集中治療室』と言っても過言ではありません。

FMRC

(Fast Medical Response Car, 通称:エフマーク)

消防指令センターからの要請で救急現場にいち早く医師や看護師を向かわせ、事故や急病患者に対して早期治療を開始し、病状を安定させるための緊急自動車です。

救命救急センターは2台のドクターカーで『攻めの救急医療』を実践します。



(左)ECMOカー、(右)FMRC

2 地域医療連携センター

患者さんがより適切な医療を受けられる体制を整備することを第一に、地域やその他の医療機関との医療連携の円滑化を目指します。



● 「かかりつけ医制度」を推進しています

当院は、高度で専門的な医療を担う特定機能病院として、他の医療機関からご紹介いただいた患者さんを中心に診療を行っています。地域の「かかりつけ医」と連携を取り、患者さんの症状に応じた適切な医療を提供いたします。

● 症状が安定すると、他の病院・医院をご紹介します

症状が安定した患者さんやお薬のみで通院されている患者さんについては、「かかりつけ医」またはお近くの医療機関へ転院し、治療を継続していただくことになっています。病院の機能分担に、ご理解とご協力をお願いいたします。

PICKUP

外来事前診療予約

当院の1日平均外来患者数は、1,200名を超えます。また、外来担当医、特に専門医による診療は毎日ではありません。予約なしでご来院いただくと、診療までに長い時間お待ちいただいたり、担当医が不在の場合は、患者さんのご希望に添えず受診できない場合があります。

当院での受診をご希望の場合は、【かかりつけ医】等にご相談いただき、医療機関から事前に診療のご予約をしていただくことをお勧めしています。

PICKUP

「かかりつけ医」紹介コーナー

当院では、「普段の通院治療、当院での治療後の経過確認、急な身体の変調時の初期治療に対応していただける地域の【かかりつけ医】」をご紹介します。

地域で開業されているクリニックのリーフレットを作成し、新館1階の【紹介コーナー】に設置しています。【かかりつけ医】をお探しの方はご利用ください。



PICKUP

入退院支援

患者さんが外来診療から入院、そして退院または転院されるまでの流れがスムーズになるよう、入退院支援を行う看護師・ソーシャルワーカーを配置し、各外来および病棟スタッフが協働して患者さんをサポートします。

また、当院を退院・転院される患者さんが、地域の医療施設や自宅等で安心して暮らしていけるよう、専門的立場からサポートいたします。

PICKUP

医療相談窓口

病気や怪我に伴って生じる療養面や社会生活面の問題や不安に対して、ソーシャルワーカーが専門的な視点からご相談に応じたり、問題解決できるよう一緒に考えサポートいたします。

患者さんご本人はもとより、ご家族からのご相談もお受けいたしますので、悩みや不安があればご相談ください。

PICKUP

治療と仕事の両立支援 相談窓口

病気を抱えた患者さんが適切な治療を受けながら働き続けることをサポートする相談窓口です。

ソーシャルワーカーや看護師が、治療と就労生活の両立が実現できるように共に考えます。

また、月に2回、福岡産業保健総合支援センターから派遣された、両立支援促進員(社会保険労務士など)による出張相談窓口も設けています。



PICKUP

医療セミナー

対象者:医療関係者

- 福岡大学病院メディカルセミナー
- 糸島医師会・福大病院
地域連携学術講演会

医療連携の取り組みの一つとして、各診療科の特色や教育・研究活動の紹介を通じて、地域の医療関係者との協力関係の充実を図っていくことを目的に医療セミナーを開催しています。



3 がんセンター



福岡大学病院は、がん診療連携拠点病院として専門的ながん医療を提供するとともに、地域の医療機関と連携して患者さんの治療や生活のサポートを包括的・継続的に行っています。がんセンターは診療科や職種の枠を超えて構成され、福岡大学病院でがん治療を円滑かつ効率的に行うことを目的に活動しています。

PICKUP

外来化学療法センター

抗がん薬に加えて、がん細胞がもつ特徴を選択的に攻撃する分子標的薬、自分の免疫力でがんを攻撃する免疫チェックポイント阻害薬など新規の治療薬が開発され、がんに対する薬物療法は進歩しています。治療には必ず副作用がありますが、いつ頃どのような副作用が起こるかを予測して予防もしくは早期発見・早期治療に努めることで、安全に有効な治療を実施できるよう専門の医師、看護師、薬剤師が協力して治療に臨んでいます。



PICKUP

緩和ケア



緩和ケアとは、病気の進み具合とは関係なく、からだや心のつらい症状を和らげ、患者さんとご家族がより豊かな時間を過ごせるようにするための医療です。症状緩和チームでは、様々な専門分野のスタッフ(医師、看護師、薬剤師、栄養士など)が集まり、主治医と一緒にご自身らしく生きるためのお手伝いをしています。

PICKUP

放射線治療

外照射機器はリニアック2台、内照射機器はコバルト照射装置を備えています。外照射は通常放射線治療から強度変調放射線治療、定位放射線治療を実施し、内照射は主に婦人科がんに伴用しています。年間治療総患者数は約500例です。2021年1月に強度変調回転放射線治療(VMAT)が可能な新治療機器(ハルシオン)を導入。治療時間の短縮が可能で、より高品質な治療を提供できるようになりました。セカンドオピニオン目的の放射線治療相談外来を併設し粒子線治療等の適応についても相談を受けています。



操作室



治療室

PICKUP

がん相談・支援

がん患者さんやご家族の気がかりを少しでも解決できるよう、がん専門相談員がご相談をお受けしています。相談内容は、「告知や副作用」「副作用と普段の生活との両立や工夫」「退院後の療養場所」など多岐に渡りますが、診断前でも、治療が始まってからでも時期を問わず、対応しています。当院にかかりつけてない患者さんや一般の方への対応も行っています。



PICKUP

がん地域医療支援

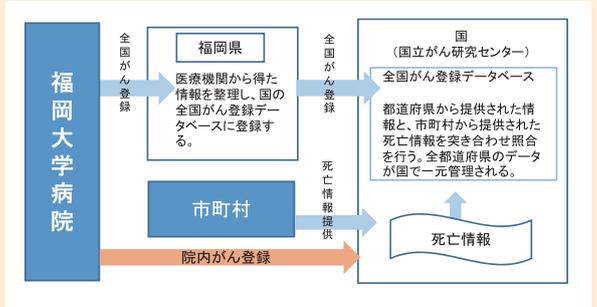
当部門では『大切にしたい、いつもの生活』をスローガンに、当院でがん治療を受ける患者さんが住み慣れた地域で質の高い医療を受け、今までと可能な限り変わらない生活ができ、心身共に安心して療育できるように、紹介医の先生方や地域の医療機関、福祉、介護施設と密な連絡を取り合いながら全力でサポートしていきます。



PICKUP

院内がん登録

院内がん登録とは、「がん」の診断・治療を受けたすべての患者さんについて、がん情報・治療情報・予後情報を収集し登録する仕組みです。これらの情報は、当院におけるがん診療の実態把握や質の向上、がん患者さんへの適切な医療の提供に役立っています。また、国に情報提供することにより、国のがん対策等にも広く利用されています。



PICKUP

がんリハビリテーション

がんセンターにがんリハビリテーション部門が新たに創設されました。がん治療において、体力の低下は日常生活動作(ADL)へ影響するだけでなく、治療の選択肢を狭め、治療成績に影響を及ぼします。当部門では体力低下予防の訓練だけでなく、体力やADLの評価を行い、治療や地域連携に役立つように活動しています。

PICKUP

がん手術支援部門

がん治療において手術治療は大きな役割を担っています。2021年1月、福岡大学がんセンターの設立に伴い「がん手術支援部門」が設けられました。福大病院では通常のがん手術のみならず、ロボット支援手術・ハイブリッド手術・ナビゲーション手術などの高度ながん手術を行っています。本部門では、このような手術治療の情報共有や患者さんへのがん手術の啓蒙活動などを行っています。福大病院では多くの患者さんに安心して最善のがんの手術を受けて頂くために、日々努力して参ります。

PICKUP

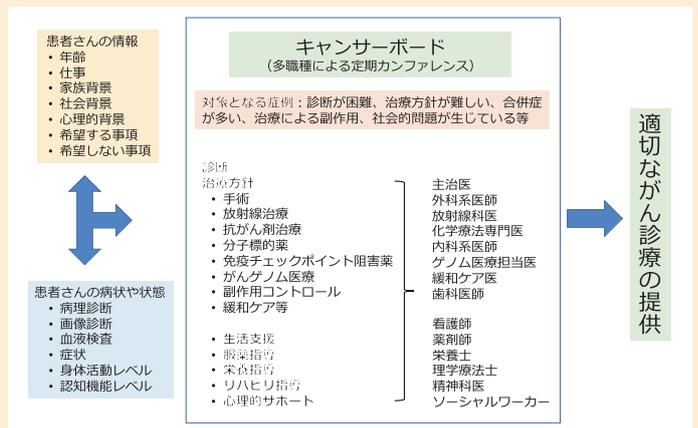
がんゲノム

当院は九州大学病院の「がんゲノム医療連携病院」として、がんゲノム医療を提供しています。がんゲノム医療とは、主にがんの組織を用いて多数の遺伝子を同時に調べることで(遺伝子パネル検査)、遺伝子変異を明らかにし、個々のがんの特徴に応じた治療を行う医療です。

PICKUP

がんセンターボード運営部門

がん患者さんの中には病状が複雑で、一つの診療科では解決できないことがあります。また、病気だけでなく、家庭の事情や経済的なことなど社会的問題もあります。がん診療では、さまざまな医療専門職の人が、診断から治療、療養生活、緩和ケアに至るまで、チームで支援していくことが重要です。福岡大学病院のがんセンターボードでは、多職種によるスタッフ間で情報の共有を行うことで、多くの視点から患者さんの問題をトータルで検討することで、安心して治療に臨めるようサポートしています。



4 最新医療機器

最新型のロボット支援システム「ダビンチXi」などの最新医療機器を備えています。



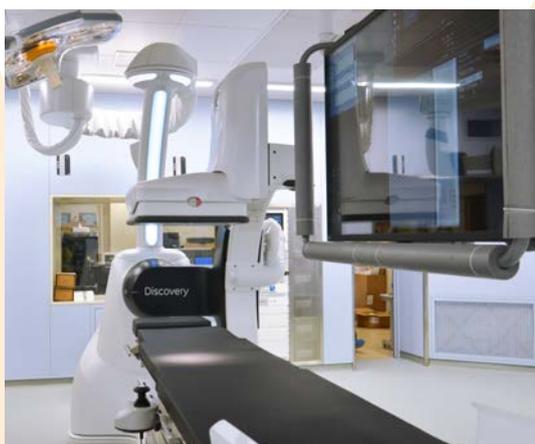
PICKUP

ハイブリッド手術室

2020年11月にハイブリッド手術室を開室し、血管撮影装置「Discovery IGS730」を導入しました。国内でも数少ない最新の自走式透視装置です。

ハイブリッド手術室とは、手術台と血管X線撮影装置を組み合わせた手術室のことで、外科手術による治療とカテーテルによる低侵襲な血管内治療を、手術室と同等の空気清浄度を保ちながら同一の室内で行うことが可能となります。これにより、手術時間の短縮や出血量の減少、さらには造影剤量や被ばく線量の低減など、患者さんの負担軽減につながります。

現在このハイブリッド手術室で、Transcatheter Aortic Valve Replacement (TAVR) の施設認定を受け、循環器内科医、心臓血管外科医、麻酔科医、そして放射線技師、臨床工学技士、看護師など多職種で「ハートチーム」を構成し、実施しています。また、ステントグラフト手術、これまで切除が困難であった微小肺がんに対し近距離無線通信を用いたRFID、マイクロチップを利用した早期肺がん低侵襲手術、脳血管バイパス手術や脊椎外科手術などの先端治療が行われています。今後更に様々な先端医療の提供が可能になる予定です。

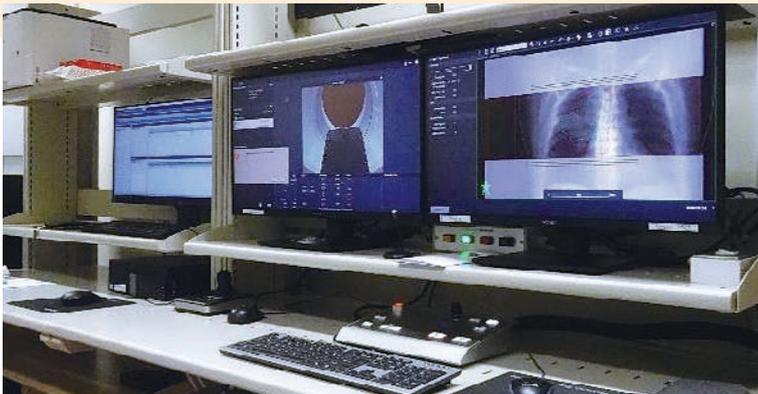


PICKUP

高精度放射線治療装置 Halcyon(ハルシオン)



Varian社製リニアック装置「Halcyon」



放射線治療操作室

2021年1月、バリアン社の最新放射線治療装置Halcyon(ハルシオン)が導入されました。この装置は、2019年3月に日本で第1号機が導入されて以来、国内で7機目となり、IMRT(強度変調放射線治療)に特化した高精度放射線治療装置です。IMRTでは、腫瘍の形に合わせて放射線を集中し、周囲の正常組織への照射線量を低減することが可能です。この装置は、治療計画から照射までが効率的にシステム化されており、これまでIMRTの対象とならなかった腫瘍に対しても適用していく予定です。また、IGRT(画像誘導放射線治療)を行うことにより再現性の高い正確な放射線治療が提供でき、高速なガントリ回転により治療時間を大幅に短縮可能です。外観はスマートなデザインで圧迫感が少なく、100cmの広い開口径ガントリや静かな動作音で患者様のストレスを軽減できます。この最新放射線治療装置の導入により、今まで以上に安全で安心できる高品質な放射線治療を提供してまいります。

PICKUP

da Vinci Xi: ダビンチ Xi

かの有名な芸術家の名を冠したダビンチXiは最新式の手術支援ロボット機器です。da Vinci Surgical System(Standard)が1999年に完成して以来、各国に広まったロボット支援機器。日本では2012年に前立腺がんに対する保険適応となったのをきっかけに多くの施設に導入されました。

ロボット手術はこれまで行われてきた腹腔鏡手術の低侵襲性(身体への負担が少ない)に加え、正確で微細な手術が可能となったことに大きな利点があります。福岡大学病院では2015年7月より第4世代となるダビンチXiを導入しました。手術件数の増加(腎泌尿器外科においては、羽賀教授が2020年に着任後に240%の増加)に伴い、2022年11月からは、これまで1台であったダビンチXiが2台となりました。それにより手術までの不安な期間が、格段に短縮されました。また、腎泌尿器外科においては、これまで腹腔鏡で行っていたほとんどの手術をダビンチXiで手術を行い、体に優しい手術を提供しています。

世界的には婦人科疾患や消化器・呼吸器疾患に対する手術も多数施行されており、わが国においても2018年4月より保険適応となっています。当院においても、多くの外科手術がダビンチXiで行われるようになりました。患者さんの様々なご要望にお応えできるとお思いますので、治療でお悩みの際は、各疾患の外来窓口までお気軽にご相談ください。



ダビンチ Xi



サージョンコンソール:
奥のモニターを見ながら、
術者は手術を行います。



患者さん側:
経験豊富な医師がダビンチ手術
をサポートしています。

5 臓器移植医療センター

命のリレー；臓器・組織移植により、患者さんの命をつなぎます。



脳死肺移植実施時の手術室

臓器移植とは、重い病気で特定の臓器の機能が低下し、生命の危機に陥った患者さんに行われる治療です。病気になった臓器を交換することによって病気を治し、命を救う治療ですが、移植用の臓器があつて初めて可能な治療です。移植用臓器は、不幸にして脳死になられた篤志の方(脳死ドナー)や愛情に基づいて臓器提供を望まれる身内の方(生体ドナー)から提供されます。「別の誰かに命をつなく」という意味で、「命のリレー」と呼ばれています。現在の日本では心臓・肺・肝臓・腎臓などの移植が可能です。福岡大学病院では「脳死・生体肺移植」と「献腎・生体腎移植」が行われています。

また移植医療の中には角膜移植のような「組織移植」という形の移植もあります。角膜移植は、患者さんの視力を回復することで生活の質(QOL)向上に役立てられます。福岡大学病院では、組織移植として「角膜移植」、「臍島移植(再生医療センター)」が行われています。

PICKUP

脳死・生体肺移植

肺移植は、肺線維症や肺気腫などの重い肺の病気で重症の呼吸不全になられた患者さんに実施されます。移植がうまくいくと患者さんは命を救われるだけでなく、肺機能を飛躍的に高めることができます。患者さんは大変元気になり、一度はあきらめた学校や職場への復帰が可能になることもあります。

日本国内には現在10か所の肺移植施設があり、福岡大学病院はその一つとして九州全域の脳死・生体肺移植を担っています。九州一円の30-40名の肺移植待機患者さんが、肺移植のその日をそれぞれの居住地でお待ちになっています。肺移植チームの医師は、肺を提供くださる脳死ドナーが現れたら日本中どこへでも直ちに出向いてドナー肺を福岡へ持ち帰り、移植手術を実施します。緊急を要する仕事ですので、移植肺の運搬にはチャーター機が使用されることもあります。



脳死肺搬送時のチャーター航空機機内



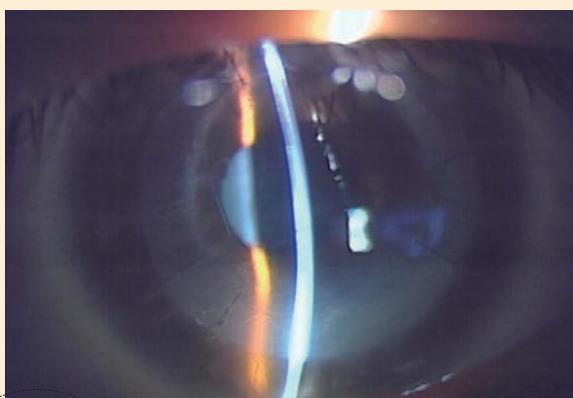
腎移植チーム

PICKUP

献腎・生体腎移植

進行性の慢性腎臓病のため腎機能を失ってしまった患者さんは血液透析、腹膜透析、腎移植のいずれかの腎代替療法を受けなくてはなりません。3つの治療法のうち最も通常に近い生活を送ることができるのが腎移植です。腎移植には脳死あるいは心停止ドナーから腎臓の提供を受ける献腎移植と、親族から提供を受ける生体腎移植があります。慢性透析患者さんが全国に約34万人、献腎移植希望登録者が約1万4千人いるのに対し、献腎提供は年間200腎程度に留まるため、わが国の腎移植の大半は生体腎移植として行われています。

福岡大学病院では腎移植希望者の術前検査、手術直後、および中長期の管理において、腎泌尿器外科と腎臓・膠原病内科が緊密に連携し、安全・確実な移植の実施を心掛けています。



移植角膜

PICKUP

角膜移植

いろいろな病気により角膜に混濁などが生じてしまうと光を眼の中に通すことができなくなってしまう、視力の低下につながります。角膜移植は障害を受けた角膜を透明な角膜に取り換えることにより視力の改善を目指す手術になります。当院における角膜移植は多数の症例で輸入角膜を使用しています。そのため、角膜移植を予定手術として行うことができます。なるべく3か月以内に行えるようにしています。また、当院の特徴として、内科的治療では病状が軽快しない難治性角膜感染症に対する深部層状角膜移植を行っております。現在、アカントアメーバ角膜炎に対するパーツ移植の成績は大変良好の結果が得られています。

PICKUP

臓器提供

最近ではLast Will(最後の意志)として万一の時に備え臓器提供の意志を事前に示す人が増えています。しかし、未だに臓器提供数が十分ではないため、移植を待ちながら亡くなる方が数多くおられます。臓器移植ネットワークは、臓器提供啓発のため毎年10月に「Green Light-up Project」として全国のランドマーク施設を移植のシンボルカラーである「グリーン」にライトアップします。福岡大学病院も、臓器移植医療の広がりを願ってこの時期に病院を美しいグリーンにライトアップします。10月には、秋の夜空に美しく光る福岡大学病院をご覧ください。



Green Light-up Project でライトアップされた福岡大学病院

6 入退院支援センター 周術期管理センター

入院予定時より周術期管理を含め、
入院・退院に関する適切な支援を行います。

当センターは、入院予定の方を対象に、入院中および退院後に安心して療養生活を送ることができるよう多職種で支援をする部門です。「手術後、トイレに行きたくなくなったらどうすればいいの?」「入院のイメージがつかなくて不安」、「入院費が払えるか心配」、「仕事との両立ができるかしら?」など入院に際し、様々な気がかりに対して、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、ソーシャルワーカー、事務等の多職種で対応します。2021年10月には、全身麻酔の手術を受ける方だけではなく、入院される方すべてを対象として支援をするために、周術期管理センターと業務を統合し、本館1階に「入退院支援センター・周術期管理センター」として拡充いたしました。外来から入院、退院後までを見据え、入院生活や退院後の療養などにおける不安や気がかりを入院前から共有させていただき、院内だけではなく、地域の行政や社会福祉機関とも連携をとり、病気に向き合う患者さん、ご家族を支援しています。外来で入院が決まりましたら、お気軽にご相談ください。



PICKUP

麻酔科医師

患者さんが麻酔の安全性、必要性、危険性などについてしっかりと理解した上で安心して手術、麻酔に臨んでいただけるように、麻酔の説明をします。

PICKUP

歯科医師

歯科医師は手術日を含めた手術前後の口腔ケアを中心とした周術期口腔機能管理を行っています。

PICKUP

歯科衛生士

歯科衛生士は、入院手術を予定された患者さんの口腔内観察を外来の段階で行い、口腔衛生状態や感染源となる歯周疾患の有無、全身麻酔時の保護が必要な動揺歯等のチェックを行います。

PICKUP

薬剤師

お薬手帳を確認し、治療や検査に影響のある薬等(休薬推奨薬)はないか、地域の薬局とも連携し、薬剤管理を行います。

PICKUP

管理栄養士

栄養状態の評価、食物アレルギーや適性食種の確認を行います。

PICKUP

看護師

入院に必要な情報の聴取、入院に対する思いや気がかりの確認、入院生活や治療過程の概要等の説明を行います。

PICKUP

メディカルソーシャルワーカー

仕事と病気の両立に関することや経済的なこと、退院後の社会福祉制度利用や自宅療養に関する相談等をお受けしています。円滑な療養生活支援のために、入院前からケアマネージャーや地域包括支援センター等の保健福祉機関とも連携を行います。

7 感染制御部



質の高い院内感染対策や
感染症診療支援により、
安全・安心な医療の提供を
サポートします。

感染制御部は、感染症対策を専門とする医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師などの多職種でチームを構成し、院内感染対策や薬剤耐性菌対策などの感染症診療支援を行っています。新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、院内感染対策の重要性が再認識されています。感染制御部は、新興感染症が発生した場合に、感染症の患者さんを当院に安全に受け入れることができるような体制の構築において、主導的な役割を担っています。患者さんと医療従事者を感染から守るために、感染症に「かからない、うつさない、ひろげない」を合言葉として、手指衛生や個人防護具の着脱、環境清掃、清潔・汚染区域のゾーニングなど基本的な感染対策の教育を行っています。感染症は病院の垣根を越えて伝播しますので、地域の医療機関とネットワークを構築し、地域全体での感染対策も行っています。

8 医療安全管理部

患者さんに安全で質の高い医療を
提供できるよう、
医療環境および医療システムの
改善に向けて日々取り組んでいます。

特定機能病院でもある当院は、地域の先進的医療を担う病院として、より高度で良質な医療の提供を目指しています。しかし、医療の高度化・複雑化、患者さんの高齢化に伴い、医療の提供には様々なリスクが生じているのも事実です。

医療安全管理部は、少しでもこのリスクを軽減し、患者さんの安全を確保するために、日々医療環境の改善、職員教育に取り組んでいます。同時に、当院で提供する治療や看護ケアに対する患者さんの疑問にも耳を傾け、患者さんと情報共有を図りながら信頼関係に基づいた患者参加型の医療の提供を目指しています。



9 摂食嚥下センター

食べて飲み込む機能の評価や維持、飲食物が気管に入ってしまうことによる肺炎や窒息の予防などに対してチーム医療を提供します。

超高齢化社会になり、入院患者さんが高齢化したこともあり、食べて飲み込む(摂食嚥下)障害に対する診療の重要性が増えています。摂食嚥下センターでは、医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士などの多職種で構成されるチームが、検査、治療、リハビリテーションにあたっています。入院患者さんの摂食嚥下障害に関する情報を集め、X線透視や内視鏡を用いた嚥下機能検査を行い、食事の形態や水分へのとろみの程度を適正に調整しています。また、必要に応じてリハビリテーション(嚥下訓練)を行い、転院や退院の際に提携先の病院やクリニック、施設に摂食嚥下に関する患者さんの情報を提供しています。さらに、摂食嚥下障害に携わる院内のスタッフを教育、養成する役割も担っています。



10 遺伝医療室

「遺伝」に関する疑問や悩みを解決していけるよう支援します。



近年、遺伝医学の進歩は目覚ましく、今まで原因不明とされてきた様々な疾患の原因遺伝子が同定され、遺伝子と疾患の関連も解明もすすみ、治療可能な遺伝性疾患も増えてきています。福岡大学病院遺伝医療室では、染色体疾患や遺伝性疾患に関する様々な疑問や不安をお持ちの方々に遺伝カウンセリングを行っています。例えば「家族の病気が自分や他の家族に遺伝しないか」、「自分の病気が子どもに伝わるかも知れない」、「子どもに先天性の異常が見つかったがどうしよう」「遺伝子検査や染色体検査を勧められたけれど、どのように考えればいいのかわからない」等をお持ちの方々に、遺伝に関する医学的、心理的、家族的影響に対して正しい情報を分かりやすく提供し、ご本人やご家族に理解していただき、共に考え、より良い方向に

向かえるようお手伝いしてまいります。遺伝カウンセリングの対象疾患は、染色体の変化に伴う疾患、神経変性疾患、小児領域の遺伝性疾患、遺伝性の内分泌・代謝疾患、遺伝性のがん、周産期疾患、NIPT: non-invasive prenatal testing(母体血を用いた非侵襲的出生前遺伝学的検査)、その他遺伝が関係する疾患です。福岡大学病院は日本人類遺伝学会の認定研修施設であり、遺伝学に精通した臨床遺伝専門医を中心に、各診療科の専門医とともに対応いたします。

11 リハビリテーション

運動器・脳血管・心大血管・内部障害の専門チームで
早期社会復帰をめざし総合的な医療を提供しています。



PICKUP

HAL® (Hybrid Assistive Limb®)

ロボットスーツHAL® (Hybrid Assistive Limb®)は人が「動きたい」と考えたとき、脳から神経を通して必要な信号をその動作に必要な筋肉へ送り出します。その信号をHAL®が読み取り、意図した動作に合わせたアシストを行います。当院では2011年9月に導入し、2019年9月まで下肢タイプ(両脚型・片脚型・膝単関節型)を431症例、上肢タイプ(肘単関節型)を185症例の脳卒中、脳腫瘍、脊椎脊髄疾患術後、全人工膝関節置換術後などの入院患者さん(13歳~95歳)に使用してきました。2016年10月より保険適応となった神経・筋難病の14症例の患者さんに実施して良い結果を得ています。

PICKUP

メディカル フィットネスセンター

福岡大学は医学部とスポーツ科学部を有する特色を生かし「メディカルフィットネスセンター」を設立し、多職種が協働で専門性の高い運動療法を皆様に提供できるように取り組んでいます。生活習慣病をはじめ、心臓疾患、糖尿病をお持ちの患者さんや、肥満、メタボリックシンドロームでお悩みの患者さんにぜひこの施設を有効に活用していただきたいと思います。

PICKUP

福岡・アジアロボティクスリサーチ& HAL® リハビリテーションセンター

当院はロボットスーツを用いて保険医療を行うことができる施設として、九州では一番最初に認可を受けました。また、保険適応外であっても自由診療で積極的に治療を行っています。「自分の脚で歩きたい」という願いを少しでも叶えられるよう患者さんをサポートしています。



PICKUP

心臓リハビリテーションセンター

心筋梗塞や心不全、心臓手術後などの患者さんはまず心臓・動脈に負担がかからない範囲内でベッドより起き上がることからリハビリが始まります。基本動作能力や歩行能力を再獲得し、少しずつ活動範囲を拡げていきます。その後は有酸素運動を中心に行い、日常生活に適應できるように体力の増進を図ります。外来では再発を予防し不安をできるだけ解消できるように医師・看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士・健康運動指導士などの多職種チームで運動指導、栄養指導、薬剤指導など一人ひとりに合わせたプログラムを提供し、患者さんをサポートしています。



12 総合周産期母子医療センター

母体・胎児・新生児に対する高度な医療を提供し、
ハイリスクの母体と新生児を救います。



福岡県で初めて
総合周産期母子医療センター
として指定された施設です。

産科部門はMFICU(母体・胎児集中治療病床)6床、産科病床24床を有し、新生児部門ではNICU(新生児集中治療病床)24床、GCU病床12床で運営され、最先端の医療機器を備え診療しています。

産科部門は、早産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、精神疾患などの合併症妊娠、多胎妊娠はもとより出生後外科的治療を要する胎児異常などの胎児疾患を中心に高度医療を推進し、安全・安心の診療を行っています。新生児部門では早産児の体外での発育管理・治療や新生児の内科的疾患を取り扱っています。また新生児外科疾患に対しては、小児外科、脳神経外科、眼科、腎泌尿器外科などの外科系各科と密接な連携を取りながら高度な医療に対応しています。



13 小児医療センター

最新の機器を備え、大学病院でなければできない
先進・高度医療を実践しています。

当センターは、
新生児期から思春期の子どもに
成育医療を提供する施設です。

成育基本法の理念に則り、妊娠期から成人期まで成長過程にある方々に切れ目なく成育医療を提供しています。一方で、福岡市の急患センターからの二次救急の受け入れなど、地域医療や救急医療にも注力しています。小児の外科疾患も扱っています。全国に先駆けて専任の保育士2名、チャイルドライフスペシャリスト1名がおり、小児看護専門看護師、臨床心理士3名等とともに、よりよいこどもの治療環境を目指しています。「子どものこころ診療センター」が2023年4月から運用され、心身症の子ども達の入院も受け入れています。



14 病理部

「患者さんのための病理診断」を目標に、各分野にわたって高度な専門性を持つ病理医の連携により、精度の高い病理診断を行います。



病理部は、組織や細胞の肉眼的・顕微鏡的観察により、病気を診断する部門です。

迅速かつ的確な診断を行うため、医師と技師、病理部と臨床各科との密接なコミュニケーションを心がけています。

私たち病理医が患者さんに直接お目にかかることは基本的にはありませんが、病理組織診断、術中迅速診断、細胞診断、そして病理解剖を通して、最終的な診断の決定に深くかかわっており、臨床医とも十分に連携し、「チーム医療」の一員として診療に従事しています。

15 臨床検査・輸血部

臨床検査・輸血部は、患者さんに質の高い医療ができるよう、臨床検査の品質・精度管理された情報を提供できるよう努めています。

患者の皆様より採取した検体から血液検査、尿検査、輸血検査、細菌検査、遺伝子検査を行う「検体検査部門」と、皆様に直接接して心電図検査、肺機能検査、脳波検査、超音波検査を行う「生理機能部門」など多岐にわたる検査を行っている部門です。

当部はコロナ禍で新たにPCR検査装置を導入するなど、365日24時間体制で緊急検査体制のもと夜間や休日でも正確で迅速に質の高い検査結果を報告しています。また、国際規格ISO15189を2014年から取得し、臨床検査室の品質と能力を向上させ安心・安全な医療提供を目指しています。



16 薬剤部

薬についての専門的知識を活かし、薬物治療を支援します。

薬剤師は、調剤および医薬品の供給や管理、医薬品情報の提供、抗がん薬の無菌調製など多岐にわたって活動しています。また、がんセンター、全病棟、手術室などに薬剤師を配置し、薬物治療の支援と副作用の早期発見に努めています。



PICKUP

抗がん薬の無菌調製

がん治療で用いる抗がん薬を無菌的に調製しています。また、がんの専門的知識を有する薬剤師が患者さん個々の状態に応じた薬物治療を支援します。

PICKUP

持参薬の確認

入院前、患者さんが服用しているお薬を対象に、手術・治療への影響や服薬状況を聞き取ります。また、薬によるアレルギーや副作用歴についても確認します。



PICKUP

薬学的な管理と指導

患者さんの薬物治療と病態を把握し、ベッドサイドでお薬の説明を行います。入院中は薬の効果や副作用の発現に注意し、退院後も切れ目のない薬物治療が継続できるように、かかりつけ薬局と連携します。



17 医学教育

医のプロフェッショナルを目指します。



PICKUP

臨床研修医の教育

本院は地域の基幹病院であり、コモンディーズ(高頻度にみられる疾患)から珍しい疾患まで様々な症例を経験できます。患者さんのファースト・タッチは研修医が行い、上級医と共に診療にあたる「屋根瓦方式」を採っており、実践的なプライマリ・ケアの修得ができます。また、三次救急のほか二次救急として新たに「救急外来(ER)」を設置し対応しています。

多くの診療科、専門医を有し、関連する診療科がセンターを形成しており連携もスムーズで、症例を総合的に診療することができます。研修医は様々な選択肢から進路を考えることができます。

PICKUP

臨床研修プログラムの特色

本院の研修プログラムは、福岡大学病院と福岡大学筑紫病院を主体に、地域の研修協力病院と病院群を構成し、効率的な研修を目標にしています。

1年次に必修科目(内科、外科、麻酔科を含めた救急部門、精神科、小児科、産婦人科)をひと通り経験し、プライマリケアを修得した上で、研修医の経験症例や多様なニーズに応じて2年次は自由に研修科や研修期間を選択できるよう選択科目の期間を長く(36週間=9カ月)設けています。また、1年次では筑紫病院で研修できるコースも選択することができます。

このほか、小児科、産婦人科に特化した研修プログラムも設置しています。



クリニカルクラークシップ

医学部・薬学部の学生には、診療参加型実習(クリニカルクラークシップ)、つまり、医学部・薬学部と病院を一体化した連続性のある教育が求められています。一人での知識や勉強では得られない、サイエンスに支えられたアートの世界が医学教育には必要です。命の大切さを学ぶ精神を基軸に、医療安全・患者満足度の視点等、医学教育の改革は世界的潮流です。医療を志す学生が基本的臨床能力を習得するための必須プログラムです。



PICKUP

医学部医学科

スチューデント・ドクターの医学生が、患者さんの診療チームの一員として大学病院内で臨床実習を行っています。指導医のもとで患者さんの病歴聴取、身体診察、検査や治療・手術などを実際に経験し、患者さんから学ぶクリニカルクラークシップは医師になるための必須のプログラムです。

PICKUP

医学部看護学科

人間性、柔軟な思考力、科学する態度や協働・連携の能力を養います。社会奉仕・貢献の感覚を醸成させ、学際的能力、国際的視野を教育の方針・目的にしてきました。地域の医療機関での研修も自身の将来像に大きな影響を与えてくれます。



PICKUP

薬学部薬学科

人の健康や生命を尊重するという考えに基づき、誠意あふれる態度を習得することを目標として長期実務実習が行われています。当院における実習では、病院薬剤師の業務と責任を理解し、病院内でのチーム医療に参画できるように、薬剤部内業務、病棟薬剤業務の参加型実習を通して薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度を学びます。

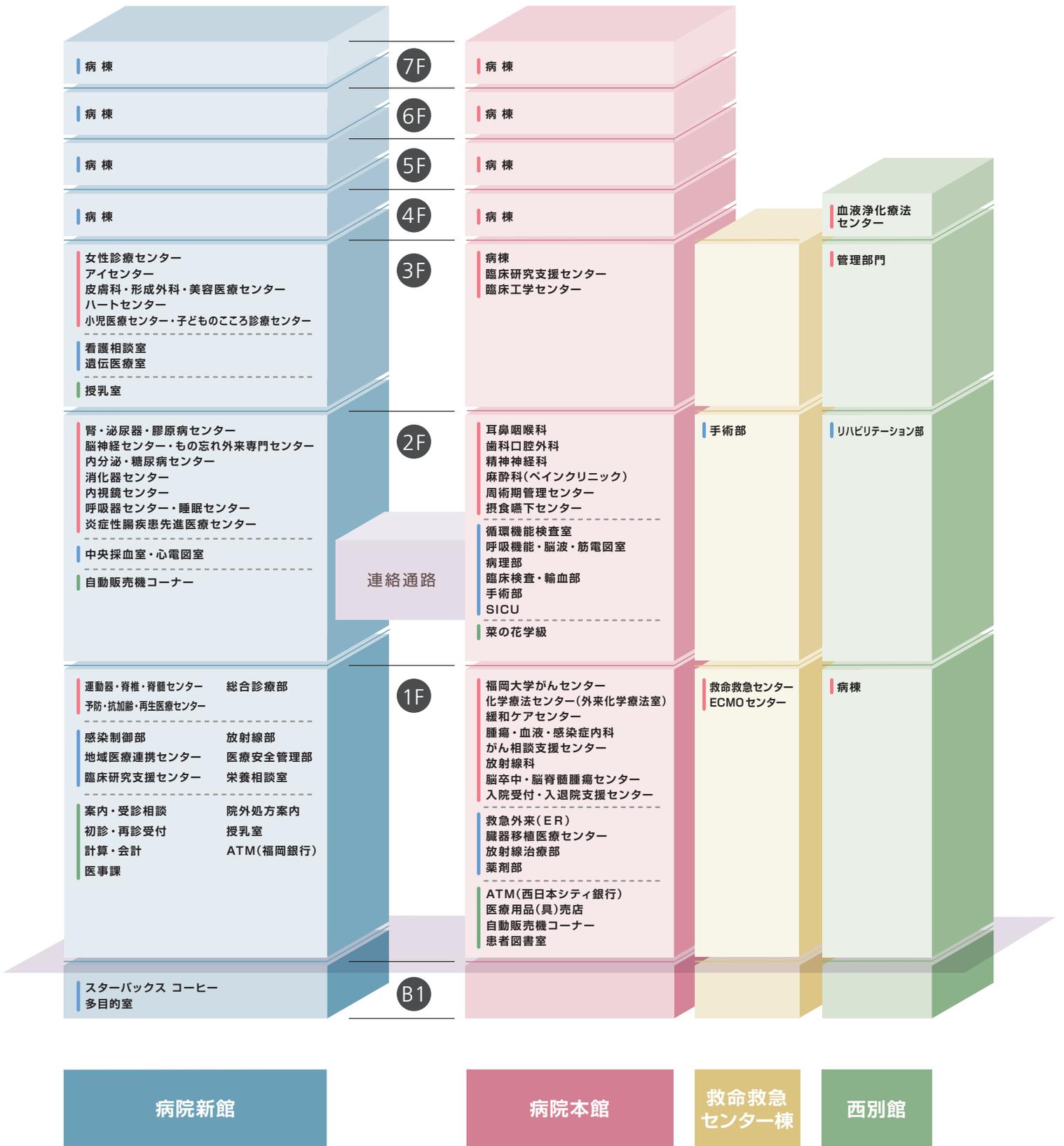


スチューデント・ドクター

臨床実習前医学系共用試験に合格した学生はスチューデント・ドクターの認定証付き名札を着用して、患者さんの診療に参加することが認められます。



フロア紹介



院内施設紹介

各番号はフロアマップ上の■と対応しています。詳しい場所はフロアマップをご覧ください。

銀行ATM

2



福岡銀行ATM

利用時間 平日・土曜・日曜・祝日
9時00分～20時00分
場所 新館1階

9



西日本シティ銀行ATM

利用時間 平日・土曜・日曜・祝日
9時00分～20時00分
場所 本館1階 休日・夜間入口横

飲食店・美容室

4



スターバックス コーヒー(喫茶)

営業時間 平日 7時30分～20時00分
土曜・日曜・祝日
10時00分～19時00分
場所 新館地下1階

6



クロスワン(レストラン)

営業時間 平日・土曜・日曜・祝日
7時00分～19時30分
場所 テナント棟2階

11



こもれび(美容室)

営業時間 月曜～金曜(祝日も営業)
9時00分～18時00分
場所 テナント棟1階

売店

1



アットホーム

クッキーやケーキの販売を行っています。
営業時間 平日 10時30分～14時00分
場所 新館1階

7



ローソン(売店)

営業時間 平日・土曜・日曜・祝日
7時00分～24時00分
場所 テナント棟1階

8



医療用品(具)売店

営業時間 平日 10時00分～16時40分
場所 本館1階

その他

3



福大メディカルホール

地下鉄七隈線福大前駅の真上にある、300席の講演会ホールで、講演会や研修会等を開催しています。

場所 新館1階横 (問い合わせ先: 庶務課)

5



福大プラザ

各診療科や講演会の案内の他、福岡市城南区の「まちかど文化ひろば」として、一般の方の展示スペースとして開放しています。

場所 新館地下1階 (問い合わせ先: 庶務課)

10



患者図書室

患者さんやご家族の方が利用できる図書室です。

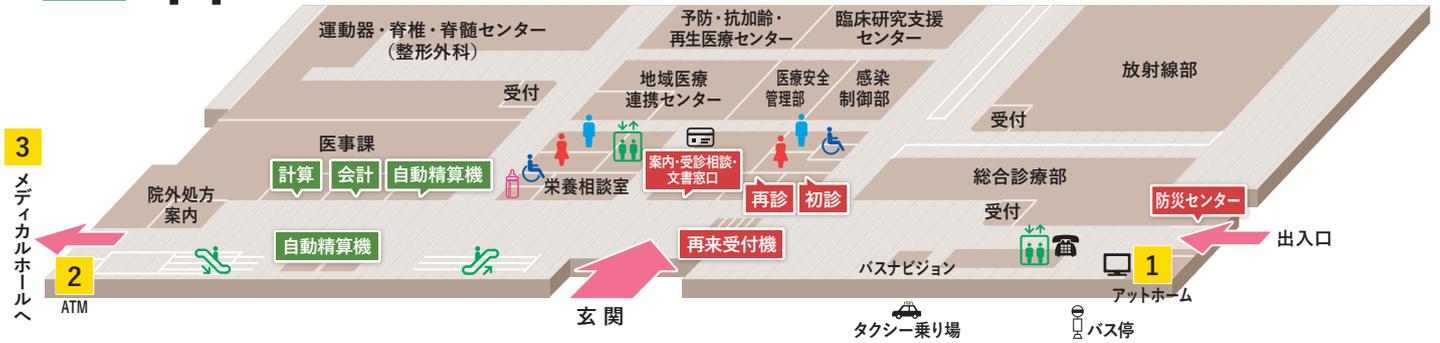
利用時間 平日 8時30分～17時30分

場所 本館1階
(問い合わせ先: 庶務課)

※新型コロナウイルス感染症の状況によって、営業時間が変更となる場合がありますので、ご注意ください。

フロアマップ 新館

新館 1F



案内・受診相談・文書窓口



初再診受付



再来受付機



計算



自動精算機



防災センター



バスナビジョン

新館 B1

- 男子トイレ
- 女子トイレ
- 多目的トイレ
- 授乳室
- エレベーター
- エスカレーター
- 公衆電話
- アットステーション (インターネット用PC(有料))
- テレビカード精算機
- 地下鉄



メディカル
フィットネスセンター



スターバックス コーヒー

新館 3F



新館 2F



心電図室



中央採血室

フロアマップ 本館

本館 2F

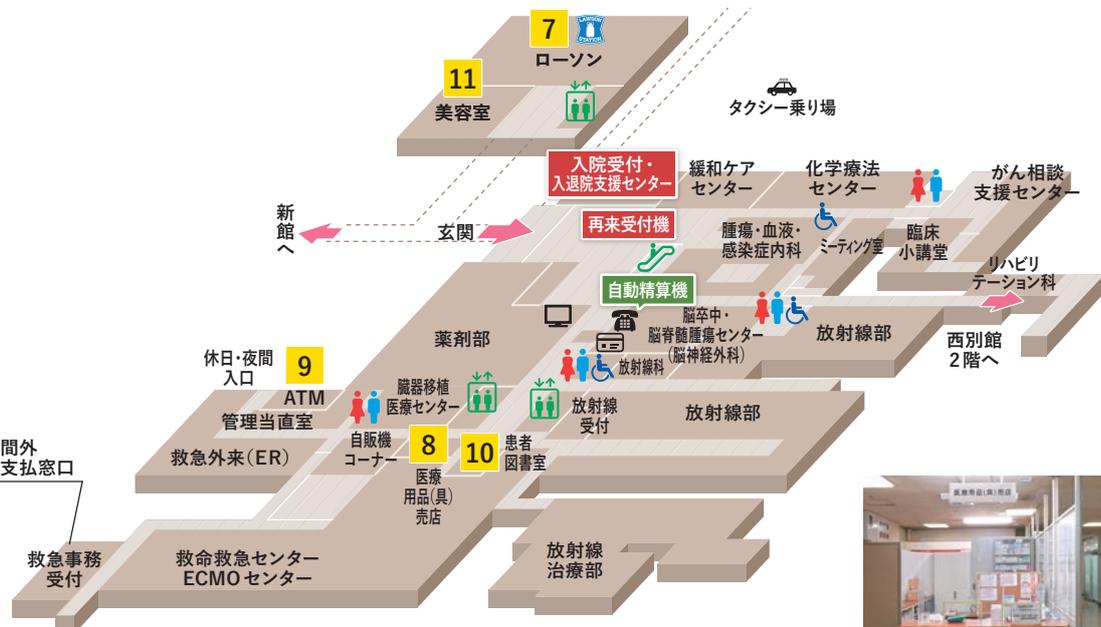


循環機能検査室(心電図・心エコー)



呼吸機能・脳波・筋電図室

本館 1F



医療用品(具)売店



放射線受付



自動精算機



救急事務受付

- 男子トイレ
- 女子トイレ
- 多目的トイレ
- 授乳室
- エレベーター
- エスカレーター
- 公衆電話
- アットステーション (インターネット用PC(有料))
- テレビカード精算機
- 地下鉄

時間外
お支払窓口

その他のさまざまな施設、多彩なイベントも 福岡大学病院の魅力です。

福大メディカルホール



地下鉄七隈線福大前駅の真上にある、300席の講演会ホールで、講演会や研修会等を開催しています。

i 問い合わせ先：庶務課

福大プラザ



各診療科や講演会の案内の他、福岡市城南区の「まちかど文化ひろば」として、一般の方の展示スペースとして開放しています。

i 問い合わせ先：庶務課

ホスピタルガーデン



新館南側から新館東側地階までをつなぐ広場です。散歩や休憩など様々な用途にご利用ください。

スターバックス コーヒー



— すべてのお客様の一日を幸せに —
高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

レストラン&ベーカリーショップ (クロスワン)



店内焼き立てベーカリーと人気のパン屋さん「ブリオッシュ」の販売をしています。お食事ができるレストランも併設しておりますので是非ご利用ください。

ボランティア



院内には、黄色のエプロンを着用したボランティアが多数活動しています。
[主な活動] 院内の案内、入院患者さんを対象とした折り紙やバルーンアートの制作など。

病院概要

病院のあゆみ

| | |
|-------------|--|
| 昭和48年8月4日 | 福岡大学病院開設 |
| 昭和59年9月30日 | 西別館完成 |
| 昭和60年4月22日 | 南片江小学校「なのはな学級」開級 |
| 昭和62年4月1日 | 救急部開設 |
| 昭和63年3月29日 | 外国医師・歯科医師臨床修練指定病院承認 |
| 平成2年4月1日 | 新生児特定集中治療室(NICU)施設基準承認 |
| 平成4年6月1日 | 救命救急センター指定 |
| 平成4年11月1日 | 特定集中治療室管理(ICU)施設基準承認 |
| 平成6年2月1日 | 特定機能病院承認 |
| 平成6年4月1日 | エイズ治療拠点病院指定 |
| 平成8年12月27日 | 災害拠点病院指定 |
| 平成10年4月1日 | 梅林中学校「菜の花学級」開級 |
| 平成10年12月1日 | 総合周産期母子医療センター指定 |
| 平成14年10月1日 | 外科系集中治療室設置 |
| 平成15年1月1日 | 院内全館禁煙実施 |
| 平成15年4月1日 | 医療安全管理部(医療相談窓口含む)を設置 卒後臨床研修センター設置 臨床工学センター設置 |
| 平成16年4月1日 | 地域医療連携室設置 臨床研修病院(基幹型)指定 |
| 平成16年11月22日 | (財)日本医療機能評価機構 病院機能評価認定 |
| 平成17年2月3日 | 福岡市営地下鉄七隈線開業 |
| 平成17年5月31日 | 脳死肺移植実施施設認定 |
| 平成17年10月28日 | 新鮮臍島分離移植施設認定 |
| 平成19年1月1日 | 病院敷地内禁煙実施 |
| 平成19年4月1日 | 院内保育所開設 腫瘍センター設置(現 福岡大学がんセンター) |
| 平成19年7月2日 | 治験拠点病院指定 |
| 平成20年1月31日 | 福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)指定 |
| 平成20年2月8日 | 地域がん診療連携拠点病院指定 |
| 平成21年8月5日 | 電子カルテシステム稼働 |
| 平成22年4月5日 | メディカルクラーク導入 |
| 平成23年1月4日 | 福岡大学病院新館開院 |
| 平成23年3月12日 | 福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)派遣(東日本大震災) |
| 平成23年6月1日 | テナント棟オープン |
| 平成24年7月21日 | 福岡都市高速5号線(環状線)開通 |
| 平成25年4月1日 | 二次救急受入れ開始 救急病院認定 |
| 平成26年6月27日 | 福岡市救急病院協会入会 |
| 平成26年7月1日 | 福岡市児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院指定 |
| 平成26年11月1日 | 福岡市認知症疾患医療センター指定 |
| 平成28年4月15日 | 福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)派遣(熊本地震) |
| 平成28年4月24日 | 日本医師会災害派遣医療チーム(福岡県JMAT)派遣(熊本地震) |
| 平成29年4月1日 | 地域医療連携センター業務専用車両運用開始 |
| 平成29年7月7日 | 朝倉豪雨災害被災地へ福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)派遣 |
| 平成30年1月4日 | ファーストメディカルレスポンスカー(FMRC)運用開始 |
| 平成30年1月29日 | 小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業受託 (福岡県・福岡市・久留米市・北九州市) |
| 平成30年4月1日 | ななくまのもり保育園開園 がんゲノム医療連携病院指定 |
| 平成30年6月1日 | 治療と仕事の両立支援相談窓口開設 |
| 平成30年7月13日 | 高齢運転者の交通事故抑止に向けて早良警察署と協力 |
| 平成31年3月4日 | ふくおかDPAT派遣協定締結 |
| 令和2年7月5日 | 福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)派遣(令和2年7月豪雨) |
| 令和2年10月14日 | 福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関指定 |

認定・指定施設

- 外国医師・歯科医師臨床修練指定病院
- 救命救急センター
- 特定機能病院
- エイズ治療拠点病院
- 災害拠点病院
- (公財)日本医療機能評価機構認定病院
- 脳死肺移植実施施設
- 福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)
- 災害派遣精神医療チーム(ふくおかDPAT)
- 地域がん診療連携拠点病院
- 救急病院
- 総合周産期母子医療センター
- 臨床研修病院(基幹型)
- 福岡市児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院
- 福岡市認知症疾患医療センター
- がんゲノム医療連携病院
- 福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関
- 福岡県小児等在宅医療推進事業拠点病院

組織図



概要

名称 福岡大学病院
所在地 福岡市城南区七隈七丁目45番1号
電話番号 092-801-1011 (代表)
FAX 092-862-8200 (代表)
ホームページ <https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>
開設年月日 昭和48年8月4日

数字データ (令和4年4月1日現在)

● 病床数 915床 (一般855床、精神60床)
● 職員数 1,930人
医師……………467人 医療技術職員…271人
臨床研修医…………54人 事務職員…………107人
看護職員…………957人 その他……………74人

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 外来患者数 | 377,466 | 370,917 | 365,401 | 359,898 | 349,399 | 306,385 | 326,096 |
| 入院患者数 | 285,895 | 253,909 | 274,319 | 270,794 | 266,923 | 239,189 | 238,286 |
| 平均在院日数* | 13.8 | 12.5 | 12.8 | 11.9 | 12.1 | 12.5 | 11.4 |
| 手術件数 | 8,565 | 8,204 | 8,490 | 8,504 | 8,553 | 7,524 | 8,117 |

*精神神経科を除く一般病棟を対象として算出しています。

患者さんの権利と義務

医療は医療者と患者さんとの信頼関係で成り立っています。福岡大学病院では、信頼され安心して受診していただける病院を実現するため、患者さんの基本的な権利を明確にしてこれを職員一同が確認すると共に、患者さんにも義務を守っていただくことを要望いたします。

● 患者さんの権利

- 受療権** 患者さんには常に人間としての尊厳と、差別のない安全で最善の医療を受ける権利があります。
- 選択権** 患者さんには病院を自由に選択し、変更する権利があります。また、患者さんには、自己の費用負担の下にセカンドオピニオンを求める権利があります。
- 自己決定権** 患者さんは検査や治療について、その目的、もたらされる結果などについて十分説明を受け、納得の上で選択あるいは拒否する権利があります。
- 知る権利** 患者さんは自分自身に関する情報を開示され、自己の健康状態について十分な情報を得る権利があります。
- プライバシー保護権** 患者さんは医療上得られた個人情報やプライバシーが守られる権利があります。

● 患者さんの義務

- 情報提供義務** 患者さんは良質な医療の提供を受けるために、ご自分の健康に関する情報をできる限り正確に医師や看護師に提供してください。
- 状況確認義務** 患者さんは納得のいく医療の提供を受けるために、医療に関する説明を受け理解できない場合は理解できるまで質問して確認してください。
- 診療協力義務**
- 全ての患者さんが適切な療養環境で治療に専念できるように、社会的ルールや病院の規則、職員の指示を守ってください。
 - 他の患者さんや職員に対する暴言・暴力等迷惑行為はお断りします。
 - 病院内では静粛にし、病院の設備・器物は大切に扱ってください。
 - 病院敷地内は禁煙・禁酒です。入院中の喫煙・飲酒は禁止します。
- 医療費支払い義務** 適切な医療を維持していただくために、医療費を滞滞なくお支払いいただくことが必要です。

● 義務に違反した場合

前掲の義務に違反する行為等があったときは診療を中止することがあります。
また、暴言・暴力等の行為があったときは警察署に通報します。

患者の皆さんの個人情報について

当院では、取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録を医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

● 個人情報の利用目的

当院での利用

- ◎患者さんがお受けになる医療サービス
- ◎医療保険事務
- ◎患者さんに関係する管理運営業務 (入院等の病棟管理、会計・経理、医療事故の報告、医療サービスの向上)
- ◎医療サービスや業務の維持・改善のための基礎資料
- ◎院内がん登録業務および全国がん登録業務(予後調査含)

当院および福岡大学での利用

- ◎医学系教育
- ◎症例に基づく研究や研修
この利用に当たりましては、可能な限り匿名化するよう努力します。

他の事業者等への情報提供

- ◎他の病院、診療所、助産所、薬局、訪問看護ステーション、介護サービス事業者等との医療サービス等に関する連携
- ◎他の医療機関等からの医療サービス等に関する照会への回答
- ◎患者さんの診療等にあたり外部の医師等の意見・助言を求める場合
- ◎検体検査業務の委託その他の業務委託
- ◎患者さんの家族への病状説明
- ◎医療保険事務(保険事務の委託、審査支払機関へのレセプトの提出)
- ◎審査支払機関または保険者からの照会への回答
- ◎関係法令等に基づく行政機関および司法機関等への提出等
- ◎関係法令に基づいて事業者等からの委託を受けて健康診断を行った場合における、事業者等へのその結果通知
- ◎医師賠償責任保険等に係る医療に関する専門の団体、保険会社等への相談又は届出等
- ◎外部監査機関への情報提供
- ◎院内がん登録および全国がん登録(予後調査含)における国立がん研究センター等への情報提供

付記

1. 臨床研究においては、患者さんの同意に基づき個人情報を適切に保護いたしております。
2. 上記のうち、他の医療機関等への情報提供について同意しがたい事項がある場合には、その旨を担当窓口までお申し出ください。
3. お申し出がないものについては、同意していただけたものとして取り扱わせていただきます。
4. これらのお申し出は、後からいつでも撤回、変更等を行うことができます。



● 外来駐車場

自家用車でご来院の際は、外来駐車場をご利用ください。ただし、入院のためご来院いただく際の駐車場利用はご遠慮いただいています。公共の交通機関をご利用くださいますようよろしくお願いします。



駐車場利用料金

駐車から最初の30分は無料、4時間まで200円、以降1時間が経過するごとに100円加算されます。

ただし、外来を受診された患者さんに限り、2時間まで100円、2～24時間まで200円となります。また、障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者福祉手帳のみが対象)をご提示いただくと、外来受診者に限り、駐車料金を免除いたします。いずれも割引処理は、新館1階防災センターにて①受付票または領収書、②駐車券、③障害者手帳(③はお持ちの方のみ)の2点もしくは3点をご提示いただくと割引処理を行います(※減免対象は当日分のみ)。

● 他医療機関への連絡バス

下記の医療機関との連絡便が運行されています。ご利用ください。

- 白十字病院
- 西福岡病院^{※1}
- 福岡リハビリテーション病院
- 夫婦石病院^{※2}
- 福西会病院

※1 西福岡病院のみ本館玄関前には停車しません。新館玄関前からお乗りください。

※2 夫婦石病院との連絡便は、新型コロナウイルス感染症拡大時、運休いたします。

